

北方町文化財報告書第23集

# 町内遺跡詳細 分布調査報告書

2004年3月



宮崎県東臼杵郡北方町教育委員会

## 序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しましては深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

北方町教育委員会では、農業基盤整備事業や、道路改良工事等諸開発事業に伴う事前発掘調査を行い、埋蔵文化財保護の保護につとめてまいりました。地下に埋もれている埋蔵文化財を、今後の開発等によって崩壊・消滅するのを未然に防ぐことを目的として、詳細分布調査を実施しました。本書は、その報告書です。

本書の刊行を通しまして、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、事業の推進にあたって分布調査の作業ご協力をいただきました町民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました宮崎県教育委員会文化課など関係機関の皆様に対し、こころより感謝申し上げます。

平成16年3月

北方町教育委員会

教育長 中 利幸

# 例 言

1. 本書は、北方町教育委員会が文化庁、宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した遺跡詳細分布調査の報告書である。
2. 調査は、北方町教育委員会が主体となり、同文化財係長小野信彦が担当した。
3. 調査の組織  
調査の組織は、以下の通りである。

調査主体	北方町教育委員会	教 育 長	中 利 幸
調査総括		社会教育課長	亀長 馨
事務担当		社会教育課長補佐	藤田統三
調査担当		文化財係長	小野信彦
調査指導	宮崎県文化課		
4. 本書の編集は、小野が行った。
5. 本書で使用した写真・図面については北方町教育委員会が保管している。
6. 本調査は、主に埋蔵文化財に関する調査であり、内容は当町全域を対象とする埋蔵文化財包蔵地調査カード及び遺跡詳細分布調査からなります。
7. 本書に記載された遺跡は、文化財保護法のいう「周知の埋蔵文化財包蔵地」です。
8. 「周知の埋蔵文化財包蔵地」において土木工事等を実施しようとする場合は、工事着手2ヶ月以前までに宮崎県教育長に届け出ることが、文化財保護法により義務づけられていますので、「周知の埋蔵文化財包蔵地」及びその隣接する地域において土木工事等の計画段階から北方町教育委員会社会教育課及び宮崎県文化課に照会されたい。  
北方町教育委員会社会教育課（北方町卯682・電話0982-47-3605）  
宮崎県文化課（宮崎市橋通東1-9-10・電話0985-26-7251）
9. 埋蔵文化財は、地下に埋もれている性質上、現在未発見のまま地中に包蔵されている場合があります。工事中に発見される当該文化財が発見された場合にも前記と同様、北方町教育委員会社会教育課及び宮崎県文化課に連絡してください。

# 目 次

1. 位置と歴史的環境	1
2. 試掘調査概要報告	3
3. 指定文化財	9
4. 遺跡地名表	9
報告書抄録	14

## 1. 遺跡の位置と環境

北方町は、宮崎県の北に位置し、東は延岡市、南は門川町・北郷村、西は西臼杵郡日之影町、北は北川町の1市3町1村と境を接する。町の南部を東西15km、南北23km余りの町域を占めて五ヶ瀬川が流れる。北には1,000m級の大崩山・鬼の目山などの山々が連なる。南部の五ヶ瀬川流域や曾木川流域には、阿蘇溶結凝灰岩の台地や河岸段丘が発達しており、本町の遺跡の大部分が集中する。

旧石器時代では、岩土原遺跡が知られている。五ヶ瀬川の南岸、標高120m前後の台地上に開けた緩やかな起伏の畑地に立地する。昭和44年に南九州大学が行った発掘調査によって縄文時代早期の下層から半船底形細石器が出土した。さらに、小型細石刃などの石器に混じって、幅広の陸帯の上に爪形の連続文をつけた土器片が発見され、旧石器時代から縄文時代草創期にかけての遺跡であることが確認された。また、五ヶ瀬川の北岸の矢野原遺跡で、A T層上位より礫群の外、ナイフ形石器や剥片尖頭器を含め約3,000点にも及ぶ遺物が出土している。また、A T層下位では、数点のスクレイパー類と剥片類が出土している。石材は水晶、流紋岩、砂岩等である。矢野原第2遺跡でも、A T層上下よりナイフ形石器やスクレイパー等が出土している。この外、笠下遺跡、東原遺跡、南久保山小堀町遺跡、下曾木慈眼寺霊苑遺跡でも、ナイフ形石器や剥片先頭器、細石器などが出土している。

縄文時代では、矢野原遺跡・矢野原第2遺跡で草創期から手向山式直前までが充実しており、小原遺跡で早期押型文が表採されている。蔵田遺跡では、早・後・晩期の出土例が多い。遺構では、礫群・集石遺構等が検出されている。この外の早期の遺跡としては、蔵田遺跡、駄小屋遺跡、東原遺跡、速日峰地区遺跡、曾木原遺跡などが知られている。前期から中期の遺跡では、笠下遺跡で船元式土器が、笠下下原遺跡で羽島下層式系土器、曾畑式土器等が出土している。後期の遺跡では、昭和41年に鈴木重治氏によって菅原洞穴が調査され、鐘崎式土器が出土した。また、仲畑遺跡、椎畑遺跡、速日峰地区遺跡で磨削縄文系の土器が、足鍋遺跡で西平系土器が、速日峰地区遺跡で市来系土器が出土している。

弥生時代から古墳時代にかけては、小原遺跡で弥生土器や須恵器片が表採されている。早日渡馬場園遺跡では、弥生時代終末期から古墳時代初頭期にかけての堅穴住居跡が2軒検出されている。また、蔵田遺跡では古墳時代の堅穴住居跡が1軒検出され、東側の一角で磨製石鎌の未製品が45個ほど見つかり、工房の可能性が指摘されている。駄小屋殿の上遺跡では、古墳時代後期の石棺が数基検出されている。矢野原第2遺跡では、古墳時代後期の石棺が7基検出され、そのうち1基からは、鉄刀と鉄鎌が各1点ずつ出土している。

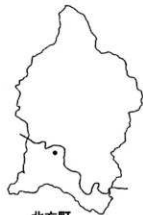
古代については、出土遺物が少なく、詳細は不明である。

中世になると、早日渡馬場園遺跡・蔵田遺跡で陶磁器、明銭、石臼等が出土している。蔵田城は、中世山城であり、郭・空堀等の施設が良好な状態で残っている。上中尾より明銭と一緒に6枚の和鏡が発見されている。そのうちの一面は「秦王鏡」と呼ばれるものであるが、何度も踏み返えが行われたと見え、文様ははっきりしない。

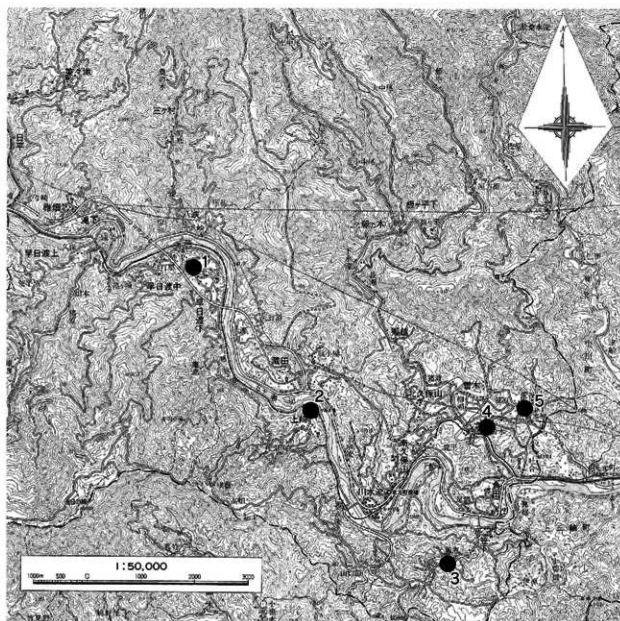
近世は、全期を通じて延岡藩の支配下に入り、内藤氏時代に木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ、明治新政府へと引き継がれた。



宮崎県



北方町



1. 打扇上ノ原遺跡 2. 上崎遺跡 3. 笠下黒原遺跡 4. 古城第2遺跡 5. 荒谷遺跡

## 2. 試掘調査概要報告

本町では、社会情勢の変化とともに過疎化、高齢化が進み、それらに対応するために町内各地で生産基盤・生活環境整備が計画され、小規模ながら各種開発事業が具体化しつつある。昭和63年度よりゴルフ場建設に伴う埋蔵文化財調査員を配置してから、町内各地の各種開発事業と埋蔵文化財の保護との調整を図るための発掘調査を実施してきた。今年度は、農地保全整備事業、詳細分布調査事業、町・教育委員会行事の合間に5ヶ所の試掘確認調査を実施した。（下表参照）

上崎遺跡では、北側の傾斜地で縄文時代早期の遺物が若干出土した。笠下黒原遺跡では、わずかに縄文時代早期の土器片が出土している。古城第2遺跡では、縄文時代早期の土器片、古墳時代の須恵器片、陶磁器片等が若干出土した。荒谷遺跡では、縄文時代早期の土器・石器片、陶磁器片が若干出土した。打扇上ノ原遺跡では、縄文時代早期の石器片が若干出土した。

遺跡名	所在地	調査原因	調査期間
上崎遺跡	辰上崎	林道拡幅	平成15年7月28日～8月29日
笠下黒原遺跡	寅笠下黒原	町道拡幅	平成15年10月14日～10月16日
古城第2遺跡	子曾木古城	畑地造成	平成15年7月29日～12月17日
荒谷遺跡	子曾木荒谷	町道拡幅	平成15年8月29日～10月17日
打扇上ノ原遺跡	巳打扇上ノ原	通信施設	平成16年3月1日

## 2. 基本層序

基本層序は、以下の通りである。各遺跡とも地形や耕作等により堆積状況が異なる。

I層…表土層（約20cm）

II層…茶褐色土層（約20cm）

III層…黒色土層。バサつく。（約30cm）上部より主に縄文時代晩期の遺物や須恵器、陶磁器等の遺物が出土。

IV層…アカホヤ層（約20cm）

V層…黒褐色土層（約20cm）やや粘質。縄文時代早期の遺構と遺物が出土。

VI層…黄褐色土層（約20cm）粘質。旧石器時代の遺物が若干出土。

VII層…A T層（約10cm）確認できない遺跡もある。

VIII層…黒褐色土層（約20cm～50cm）やや粘質。3～5cmのブロック状。

IX層…黄茶褐色土層。粘質。小砂利を含む。

X層…阿蘇溶結凝灰岩層。岩盤。

## 上崎遺跡

上崎遺跡は、標高約150m～160m程の通称「原」と呼ばれる台地の北側斜面上に位置し、以前から石楯等が採集されていた。五ヶ瀬川からの比高差は60～80mである。工事に伴い確認調査を行なった。調査の結果、縄文時代早期の土器片が若干出土した。傾斜地の割には、アカホヤ層の堆積も良好である。周辺地域にも、遺構の存在が予想され、開発に関しては今後十分な対策が必要である。

調査状況



確認後工事実施状況

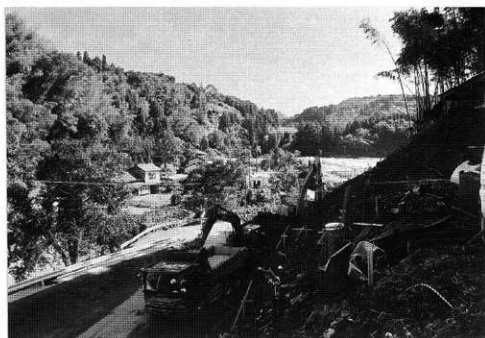


### 笠下黒原遺跡

出土遺物がわずかで、土層の堆積状況もよくなかった。傾斜地での出土であるが、他遺跡の事例から、周辺には、削平をまめがれている遺構の存在が予想されるので、今後、十分な対策が必要である。



調査状況



確認後工事実施状況



### 古城第2遺跡

土層の堆積状況は、良好である。昨年調査した東側の、削平される部分の確認調査を実施した。

調査の結果、埋土中より須恵器片が出土した。この外、縄文時代早期の土器片、陶磁器片（備前焼の瓶の破片）等が若干出土した。中世山城の伝承地でもあり、周囲の開発に関しては十分な対策が必要である。



調査状況



確認後土取り状況

### 荒谷遺跡

土層の堆積状況は良好であったが、出土遺物はわずかであった。周辺には、削平をまぬがれている遺構の存在が予想されるので、今後、開発に当っては十分な対策が必要である。



調査状況



確認後工事実施状況

### 打扇上ノ原遺跡

南側には、圃場整備事業に伴う発掘調査で、古墳時代の竪穴住居跡が検出されている。土層の堆積状況は良くなかったが、縄文時代早期の包含層を確認し、焼け石や若干の剥片を検出した。周辺に類似施設の建設が予想されるため、今後、十分な対策が必要である。



調査区遠景



調査状況

### 3. 指定文化財

北方町には、国指定文化財が2、県指定文化財が2、町指定文化財が1ある。

番号	名称	指定	所在地	種別	時代	指定年月日
	カモシカ	国	地域を定めず	特別天然記念物		天) 昭和9. 5. 1 特) 昭和30. 2. 15
2	比叡山	国	未 菅原	名勝		昭和14. 9. 7
46・47	北方村古墳	県	子 曾木	史跡	古墳	昭和12. 7. 2
52	僧胤康関係資料	県	子 曾木	有形文化財	近世	平成16. 3. 29
21	椎畑六地藏	町	未 椎畑	有形文化財	中世	平成8. 3. 3

### 4. 遺跡地名表

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	備考
1	東の内遺跡	申 東の内	散布地	縄文～中世	一部日之影側へ分布が広がる
2	比叡山	未	国指定名勝		
3	菅原遺跡 菅原洞穴	未 菅原	散布地 洞穴遺跡	旧石器～中世	昭和41年調査
4	横峰遺跡	未 横峰	散布地	縄文～中世	近代鉱山跡
5	美々地遺跡	西 上中尾	散布地	中世～近世	中世山城の可能性
6	三ヶ村桑の木遺跡	午 三ヶ村桑の木	散布地	中世～近世	
7	三ヶ村内の口遺跡	午 内の口	散布地	中世～近世	
8	上中尾遺跡	西 上中尾	散布地	中世～近世	和鏡5面と洪武通宝2枚が出土

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
9	大保下遺跡	亥 大保下	散布地	中世～近世	
10	石上遺跡	亥 石上	散布地	中世～近世	
11	二股上遺跡	戌 二股上	散布地	中世～近世	
12	唐立遺跡	戌 唐立	散布地	中世～近世	
13	檜原遺跡	戌 檜原	散布地	縄文～近世	平成4年確認調査 一部消滅
14	屋形原遺跡	戌 屋形原	散布地	縄文～近世	
15	板ヶ平遺跡	戌 板ヶ平	散布地	縄文～近世	
16	小原遺跡	戌 小原	集落跡	縄文～近世	平成5年確認調査 一部消滅
17	藤の木桑水流遺跡	酉 藤の木桑水流	集落跡	縄文～近世	平成5年確認調査 一部消滅
18	尾払遺跡	午 尾払	散布地	中世～近世	
19	八峽遺跡	午 八峽	集落跡	弥生～近世	一部消滅
20	松舟遺跡	午 松舟	散布地	中世～近世	
21	椎畑遺跡 椎畑六地藏	未 椎畑	散布地 町指定文化財	縄文～近世	多木遺跡(旧名) を変更
22	城遺跡	巳 城	散布地 中世山城跡	縄文～近世	山城の大部分は削 平されている
23	久保遺跡	巳 久保	散布地	縄文～近世	
24	荒平遺跡	巳 荒平	散布地	縄文～近世	西南戦争官軍兵士 の墓あり

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
25	打扇遺跡	巳 打扇	集落跡	旧石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
26	早日渡遺跡	巳 早日渡	集落跡	旧石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
27	矢野原遺跡	辰 矢野原	集落跡	旧石器～近世	平成5年調査 一部消滅
28	蔵田遺跡	辰 蔵田	集落跡	旧石器～近世	昭和62年～平成5年調査、一部消滅
29	蔵田城	辰 蔵田	中世山城跡	中世	堀等が良好に残る
30	駄小屋遺跡	辰 駄小屋	散布地	旧石器～近世	
31	地山遺跡	辰 地山	散布地	縄文～近世	平成9年調査 一部消滅
32	殿上遺跡	辰 殿上	散布地 石棺群	旧石器～近世	石棺群は消滅
33	上崎遺跡	辰 上崎	集落跡	旧石器～近世	平成12年度より現在 まで調査中、一部消滅
34	船木谷遺跡	子 船木谷	散布地	縄文～近世	
35	瀬越遺跡	子 瀬越	散布地	縄文～近世	
36	川水流遺跡	子 川水流	集落跡	旧石器～近世	中世山城の可能性 一部調査
37	東原遺跡	子 東原	散布地	旧石器～近世	一部調査
38	南久保山小堀町遺跡	子 南久保山小堀町	集落跡	旧石器～近世	一部調査
39	十郎ケ尾遺跡	子 十郎ケ尾	散布地	縄文～近世	
40	柳瀬遺跡	子 柳瀬	散布地	縄文～近世	

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
4 1	北久保山遺跡	子 北久保山	散布地	縄文～近世	
4 2	猪渡遺跡	子 猪渡	集落跡	縄文～近世	一部調査
4 3	上畑遺跡	子 上畑	散布地 中世山城跡	縄文～中世	西南戦争時に再利用
4 4	仲畑城跡	子 仲畑	中世山城跡	中世	堀等が残る
4 5	仲畑遺跡	子 仲畑	散布地	縄文～近世	
4 6	老丁鐘遺跡	子 老丁鐘	石棺群	古墳	県指定北方村古墳 1号墳
4 7	曾木遺跡	子 曾木	散布地 石棺群	縄文～近世	県指定北方村古墳 2号墳
4 8	笹原遺跡	子 笹原	散布地	縄文～近世	
4 9	荒谷遺跡	子 荒谷	散布地	縄文～近世	一部調査
5 0	曾木原遺跡	子 深谷	散布地	旧石器～近世	一部調査
5 1	深谷遺跡	子 深谷	散布地	旧石器～近世	一部調査
5 2	古城遺跡	子 古城	散布地 中世山城跡	旧石器～近世	一部調査、県指定 文化財・僧胤康関 係資料
5 3	中野遺跡	子 中野	散布地	縄文～近世	一部調査
5 4	黒仁田遺跡	子 黒仁田	散布地	縄文～近世	
5 5	権現原遺跡	丑 権現原	散布地	縄文～近世	一部調査
5 6	角田遺跡	丑 上屋敷・下屋敷 垣ノ内	中世山城跡	中世	地名のみで遺構は 確認できない

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
57	角田上ノ原遺跡	丑 上ノ原	散布地	縄文～近世	
58	足鍋遺跡	丑 足鍋	散布地	縄文～近世	
59	下崎遺跡	丑 下崎	散布地	縄文～近世	
60	中山遺跡	卯 中山	散布地	縄文～近世	運動公園建設で消滅
61	上田下	寅 上田下	散布地	縄文～近世	一部調査
62	岩土北平遺跡	寅 岩土北平	散布地	旧石器～近世	一部調査
63	岩土原遺跡	寅 岩土原	散布地	旧石器～近世	
64	笠下遺跡	寅 笠下	散布地	縄文～近世	一部調査
65	松尾原遺跡	寅 松尾原	散布地	旧石器～近世	
66	藤ノ木谷遺跡	寅 藤ノ木谷	散布地	旧石器～近世	一部調査
67	伊木原遺跡	寅 伊木原	散布地	旧石器～近世	
68	炭ノ越遺跡	寅 炭ノ越	散布地	旧石器～近世	
69	笠下下原遺跡	寅 下タノ原	散布地	旧石器～近世	
70	笠下黒原遺跡	寅 黒原	散布地	旧石器～近世	一部保存
71	笠下山口原遺跡	寅 山口原	散布地	旧石器～近世	一部保存
72	笠下ゴルフ場遺跡	寅 塩田外	散布地	旧石器～近世	一部保存



# 報 告 書 抄 録

フリガナ	チョウナイイセキシヨウサイブンブチョウサホウコクシヨ							
書名	町内遺跡詳細分布調査報告書							
副書名	上崎地区県営農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財調査概要報告書							
巻 次								
シリーズ名	北方町文化財報告書							
シリーズ番号	第23集							
編集者名	小野信彦							
編集機関	北方町教育委員会							
所在地	宮崎県東臼杵郡北方町卯682番地							
発行年月日	平成16年3月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
チョウナイイセキ 町内遺跡	東臼杵郡 北方町子 外	45426				2003.6.1～ 2004.3.31		各開発事業との 事前調整の資料作成
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
町内遺跡	包蔵地 等							

町内遺跡詳細分布調査報告書

北方町文化財報告書

第 23 集

平成 16 年 3 月 31 日

発行 北方町教育委員会

〒882-0192

宮崎県東臼杵郡北方町卯 6 8 2

印刷 クラフト印刷

〒882-0103

宮崎県東臼杵郡北方町子 4146



